

かみのやま 祭 彩

2023

10



★Topics

p2-3 かみのやま秋祭り「祭＊彩」

p4-7 【特集】まちの情報 分かち合う

p20 「かみのやまのピース」 # 5 番場三雄さん

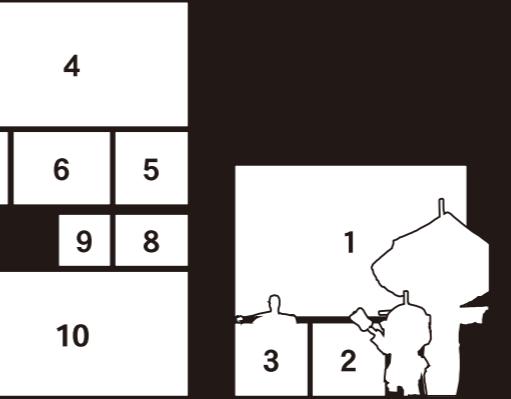


上山市ホームページ
視覚障がい者などへの
支援アプリ「ナビレンズ」
からも読み取れます。

祭彩

上山ならではの祭りが
ここだけの秋を彩る

秋晴れの空の下に、かかしが並ぶ。太鼓や笛の音色が響き
わたる。山車や甲冑隊、稚児隊がまちなかを練り歩く。
「今年も上山に秋がやつてきた」と知らせるように、地域に
根付き、愛されてきたお祭りが秋を彩り、楽しむ人々の笑顔
がまちにあふれました。



1_市内小・中学生による短歌かかしが来場者をお出迎え。思い出や日常で感じたことを詠んだ力作が並ぶ／2・3_かかしと一緒に「ハイチーズ！」／4・7_屋の部と夜の部で2台の山車が市内を周遊。華麗な舞にたくさんの人が目を奪われた／5・6_踊りを支える引き手のみなさん。炎天下に負けじと力強く山車を引き続けた／8_一般募集で参加した稚児隊。子どもたちが笑顔で練り歩く／9_笛や太鼓の音が祭りの熱をさらに高める／10_甲冑などを身にまとった行列がまちを包んだ

かみのやま温泉 かかし展示9days



ふるさと秋まつり 踊り山車

9月17日、花柳優梓社中とやまがた舞子のみなさんが雅な舞を披露。温泉街など坂道が多い道中を、踊り山車を楽しみに待つ人々の元へ引き手のみなさんが力を合わせて運びました。



9月17日、月岡神社・上山八幡神社・正八幡神社のみこし行列が行われ、甲冑隊や稚児隊が市内を練り歩きました。響きわたる太鼓や笛の音、古式ゆかしい衣装に身を包んだ行列はまるでタイムスリップしたよう。多くの人が足を止め目を奪われていました。



上山三社 みこし行列

2 市報を声で「伝える」

録音図書を聞くための機器「PLEX-TALK」（プレクストーク）が7月、図書館に設置されました。市報を音声化した「声の広報」などを聞くことができます。目の不自由な人や、細かな字が読みづらくなってきた高齢者など、誰でも利用することができます。



3 読み込みがスムーズなアプリ「ナビレンズ」



ナビレンスはスペインで開発された視覚障がい者支援のアプリです。スマートフォンなどのカメラで専用タグを読み取るだけで、必要な情報を読み上げることができます。ニューヨークの地下鉄では路線の案内、欧米のスーパーでは商品説明や売り場の案内など、多岐にわたり活用されています。

TOPIC 利用者の声

子どもから大人まで、誰もが簡単に利用できる

ナビレンスがまちなかに増えれば、目の不自由な人でも一人で出かけられる機会が増えると思います。「一人で用事を済ませたい、一人で外に出たい」という希望を叶えてくれる画期的なアプリですね。また、耳からの情報だけでは記憶に留めておくことが

難しいケースがあります。同じことを繰り返し聞くと、聞く側も聞かれる側も疲れてしまいますが、ナビレンスはそんなストレスを解消してくれます。使い方は簡単なので、健常者も子どもから大人まで幅広い人におすすめしたいですね。



木村 清さん(河崎)



みんなに知ってほしい まち上山の情報

私たちが生活する上で、情報を伝える、受け取る、そして理解するというコミュニケーションは欠かせません。「日常のやりとりを分け隔てなく平等に」という気持ちが少しづつ形になり始めています。

1 防災ファイルを音声に

市は災害時の避難行動や避難場所などを掲載した防災ファイルを音声データ化し、目になりました。しかし、現実は時代になりました。本当にそうでしょうか。必要とされる情報が得られる時代になりました。しかし、現実は時代になりました。本当にそうでしょうか。情報化社会で技術も進み、あたりまえに、簡単に情報が得られる時代になりました。しかし、現実は時代になりました。本当にそうでしょうか。必要とされる情報が得られるように行政、市民のみなさんの取り組みを見ていきます。



声で分かち合う

まちのイベントやお知らせ、市の政策など、「市報かみのやま」の情報を約50年にわたって「声」で届けているボランティア団体があります。行政の情報がこのまちのみんなに行きわたらようになり、目の不自由な人に寄り添った息の長い活動が、日々の暮らしを支えています。

特集 まちの情報 分かち合う



TOPIC 点字図書館に録音図書

声の広報のほか、遠藤さんなどメンバー3人は県立点字図書館で音訳作業を行っています。広報誌のほか、雑誌や小説などジャンルは多岐にわたります。



まちを変える一步になります。気持ちの変化が、このままに触れてみてください。そこから生まれる心がけが必要です。まずは、新しい機会があります。

長く続けてきた「上山市声の広報グループ」の活動に加えて、防災ファイルの音声データ化やナビレンスの導入など新たな動き。時代に合わせた機能の活用によって、情報への触れやすさ、利用しやすさ、便利さが向上し、誰もが共生できるようになります。このまちづくりがある人との区分けはありません。

まちの情報 市民の活力に

interview

この「声」に 思いものせて

上山市声の広報グループ会長
遠藤文子さん（矢来4）

私は1981年から約40年、「声の広報」の活動を続け、テープの数でいうと2万本以上を利用者に届けてきました。常に心がけていることは正確に読み上げること。これは、音訳においては大原則です。また、聞く人の姿を想像し、聞きやすく、分かりやすく読み上げることを意識しています。市報1冊を読み上げると、その長さは2時間以上におよびます。そのため、長い時間聞いても疲れないよう一つひとつ言葉を丁寧に読み上げています。以前はカセットテープに直接吹き込んでいましたが、5年ほど前からパソコンを使って、パートごとに録音できるようになったので作業がしやすくなりました。この活動を長い期間続けられる秘訣は、利用者とのコミュニケーションです。お礼の手紙をもらったり、CDデータの声の調子から「体調は大丈夫?」と気遣っていただいたら、利用者からも「声」を返していただい

ています。この親近感のある関係がパワーの源であり、とても感謝しています。私たちは「誰にも等しく市の情報が届くように」という思いで活動しています。目が不自由だから、というネガティブな思いは抱かず、前向きに日々の生活を送ることができるようにと心をこめています。今後は声の広報だけではなくさまざまな媒体を使って、境目なく情報が行き届くまになればと思います。私たちも要望があれば、市報以外の情報も声でお届けしたいと思います。

私たちの活動を知ってもらい、一人ひとりが日ごろから何かできないかを考えるきっかけになればうれしいです。例えば、障がい者に声をかけることを失礼だと思わず、困っている人がいたら助けてあげてほしいです。その行動の積み重ねが、誰もが等しく情報が得られるまちのきっかけになると思います。



上山市声の広報グループ

声の広報ができるまで

STEP 02 音訳



割り当てられたパートの読み仮名を確認し、各自が音訳。パソコンを使って自宅や体育文化センターの録音室で吹き込みを行います。

STEP 01 市報確認・担当決め



市の広報担当から市報の原稿を受け取ります。誰がどのパートを担当するか役割分担を行い音訳に臨みます。

STEP 04 利用者に届ける



市報の発行日にあわせて完成した音声データをCDにコピーします。そして、完成品を利用者のものへ郵送します。

STEP 03 音訳データの確認・編集



音訳したデータを持ち寄り、読み間違いがないか確認・修正をします。その後音声を1本にまとめ上げ、データが完成します。

TOPIC 利用者の声

家族に頼らざることが増えた

10年以上前から利用しています。分かりやすいよう工夫して読んでくれているのが伝わります。声の広報で得た情報をもとに盲導犬と市役所に出向いて手続きできただけが嬉しかったです。



小野良太さん(宮脇)

声の広報が毎月の楽しみに

行政情報やまちの話題を正確に伝えていただけて感謝しています。また、市内で一生懸命に活動している人の話を聞いて、その様子を想像すると、とても親近感が湧いてきますね。



伊澤 恵さん(金瓶)



PICK UP かみのやま

まちの出来事や
市の情報を紹介！



子どもたちがピアノの音色を響かせて

上山音楽センターが主催する「市民のためのミニコンサート～上山城でピアノを弾いてみよう～」が9月3日に開催され、市内のピアノ教室に通う年中児～高校3年生の計39人が練習の成果を披露しました。中山幸祐くん（山形市・4歳）は「ドキドキワクワクしました」と笑顔で演奏を振り返りました。



にぎやかな声響く 楽しい夏祭り

8月18日、市民公園で「けやきの森の夏祭り」が開催され、たくさんの親子連れがヨーヨーすべり射的、くじ引き、食べ物などの屋台を楽しみました。山形市から訪れた武田悠聖くん（小学2年）・爽良くん（3歳）は「いろんな屋台があってとても面白かったです」とにこやかに話しました。

日々の気づきや 考えを堂々と発表

8月31日、「第62回山形県少年の主張大会上山地区大会」が市役所で行われました。大会には市内中学生6人が出場し、自身の経験をもとにした主張を発表。最優秀賞に輝いた加藤芽衣さん（北中3年）は「その裏側を」と題し、ニュースやSNSの内容をうのみにせずに、その裏側を知ろうとする意識の大切さを訴えました。



最優秀賞に輝いた加藤さん

暑さをしのいで 快適・健康に

記録的な暑さの中、冷房が効いた部屋を熱中症対策として利用してもらおうと、市は「涼みどころ（クーリングシェルター）」を開設しました。市役所や公民館など12の公共施設を開放。図書館を訪れた鈴木美代子さん（北町）は「今年の夏は特別な暑さ。涼しい所で活動できてありがとうございます」と話しました。

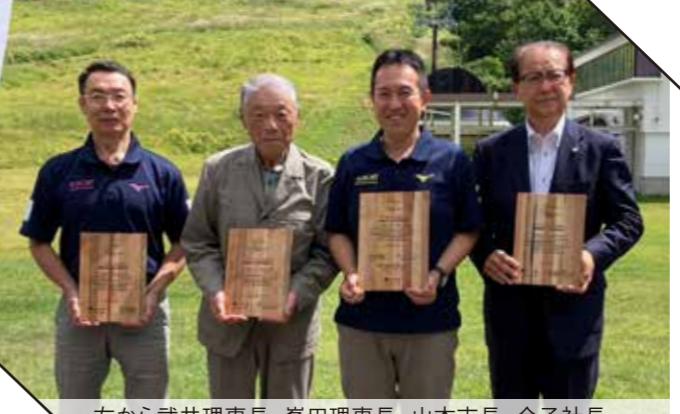


8月24日～9月29日にかけて公共施設を開放

上山地区大会審査結果

- 最優秀賞…加藤芽衣さん（北中3年）
- 優秀賞…丹野心里さん（北中2年）
- 優良賞…秋葉楓さん（南中3年）
- 奨励賞…石山来愛さん（南中3年）
- 奨励賞…細川由莉夏さん（宮川中3年）
- 奨励賞…五十嵐釉南さん（南中2年）

最優秀賞の加藤さん、優秀賞の丹野さんは9月13日に行われた山形ブロック大会に出場。さらに、同大会で優秀賞に輝いた加藤さんは県大会に進出しました。



左から武井理事長、峯田理事長、山本市長、金子社長

"心と体がうるおうまち"へ 新たに3社と協定

企業の健康経営推進と地域の活性化を図る「ケアオルトかみのやま」健康経営相互応援協定の締結式が8月28日、蔵王坊平で行われました。これまで10社と締結しており、今回新たに(株)エス・エム・アイ(金子昌弘代表取締役社長)、(医)みゆき会(武井 寛理事長)、(医)二本松会かみのやま病院(峯田武興理事長)と締結し、相互連携を誓いました。

「かみのやま」の ピース

#5

かけがえのないピースとして、かみのやまを輝かせているみなさんを紹介！



番場 一雄さん

番場 一雄さん。日本美術院が主催する日本画の公募展「再興第108回院展」で内閣総理大臣賞を受賞した番場一雄さん。受賞作品は米沢藩歴代藩主の墓所「上杉家御廟所」を描いたものです。

今年8月に審査が行われた日本画の公募展「再興第108回院展」で内閣総理大臣賞を受賞した番場一雄さん。受賞作品は米沢藩歴代藩主の墓所「上杉家御廟所」を描いたものです。

「何年も前から足を運びスケッチを重ねました。左右に杉並木がそびえ立ち、その奥に墓所がたたずむ静かな世界観を表現しています。季節によって、杉が深緑や重い赤色などに色を変えたり、天候の違いで同じ視点でも雰囲気が異なったり、その時々の表情に惹かれました」と語ります。

番場さんは、木工業が盛んな新潟県加茂市生まれ。掛け軸を描く会社に就職し、日本画と出会います。当時の社長の勧めもあって作品づくりを始めました。そして、平成5年、東北芸術工科大学に赴任し、山形での暮らし始がスタートします。

「田舎のは感情や匂いが決まる」もあり、作品の裏には多くの人の存在があると言います。

「田舎のは感情や匂いが決まる」もあり、作品の裏には多くの人の存在があると言います。番場さんは、人との関わり合いながら今日も筆をとります。■

今年8月に審査が行

した。

番場さんの作品は、風景や仏像、牛や馬などさまざま。岩絵の具とい

う岩などを削った粉末状の絵の具を和紙に接着する「」で、質感や立体感を繊細に表現して

います。その表現は、現地でのスケッチがあつて、鉛筆でのスケッチのほか、特徴や感じたことなどをメモした写生帳は約一百冊にのぼります。

「地元の人人が話しかけてくれたり、差し入れをくれたり、雪の中傘をさしながら描いていると手袋を貸してくれた少年もござましたね」